

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年3月25日

馬込幼稚園

1. 本園の教育目標

幼児期は人間形成の上で、最も大切な時期です。馬込幼稚園では、望ましい教育環境や教育体験を総合的に与えることで興味や関心の芽生えを助け「こころ」と「からだ」の調和のとれた成長を促す。

将来、どんな状況にあっても耐えうる意志の強さと創造性にあふれ、可能性にきらめく知性の芽を育てる事こそ幼児教育の在り方です。教育への限りない情熱と次世代を担う子ども達の未来を見つめる保育者の温かい眼差しが馬込幼稚園の原点である。

2. 園の重点目標

多様性の時代の保育

ダイバーシティという言葉が広がりと共に、保育における多様性の問題に注目が集まるようになってきた。違いがあることを基本に多様な人間が共存することを大切にする多様性を理解せねばならない。しかし、実際には集団から「はみだす」そのような子どもも文字から英語を見つけ、保育室のポスターの中から正確に写し出し、喜んでる姿なども発見することが出来、感動した。そのような社会を生き抜く時、幼い頃から豊かなコミュニケーション力を世界に向けて育つよう、環境づくりに努力・発見し、共に生きる力を育てたい。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育の質向上のために、園内研修を充実させる。	A	令和5年は、7アクト（中央出版社）のネイティブの教諭を実力のある講師子供達との生活・遊びを明るく好かれる社会性豊かな講師を選択し楽しい一日が共有し、発展できる人選の選択に工夫・努力した。
2	教育課程を見直し改善を図る	A	カリキュラム 会話・身見・マテリアルを上手に具体的に活用できるよう、クラス別年齢別に用意・準備をする。2歳児3歳児は、歌・踊り・遊びを中心に工夫する。保育者とのコミュニケーション・立ち位置・補佐を話し合う、保育者は協力する姿勢をとる

評価（A…十分に効果があった B…効果があった C…少し効果があった D…効果がなかった）

4. 今年度の取り組み

4月・5月 導入期

英語に興味を持つよう、環境を整える。

マテリアルをたくさん準備し応用力の準備

6月・7月

先生に馴染む・個の聞く力・表現する力豊かな社会性の育ちを勇気づけ
実践を促す

8月 休暇に入る

自由体験・自由学習

先輩の情報をもとに外人宅に遊びに行く。

インターナショナルスクールのイベントに参加したり、個々に工夫して取り
入れている。

9月・10月

園行事・園生活の中で週2回のえいごをとりいれた保育は、文字・アルファ
ベット・カウントなどに興味が膨らむ。自然と色にも興味を持つ。

11月・12月

世界共通の行事

ハロウィン、クリスマス等の色々な様式・文化を知り、楽しむ。

メッセージカードを作ったりする。

1月・2月

日本文化の正月、世界の新年などの生活・遊び・文化について学び、経験す
る。色々な国に興味・関心を深める。

3月

学芸会・文化祭において異年齢で劇を作って発表し、保護者や地域社会に見
てもらう。

5. 学校関係者評価委員会の評価

小学校1年生から公立でも英語を導入し、従来の教科に多くの課題を投げられている
現状、子ども達の心身の健康、豊かな社会性の成長を促すかは家庭及び地域社会での
理解と勇気づけであり、そのことを心がけていきたい。

英語は幼児期には必要ないとの声も一部ではあるが、子ども達が積極的に取り組んで
いく環境作りが出来ている。今後にも期待している。

子ども達中心の行事として夕涼み会や運動会、学芸会など。様々なイベントを地域社
会へ公開しており、その取り組む姿勢に感動と勇気を多く受ける。